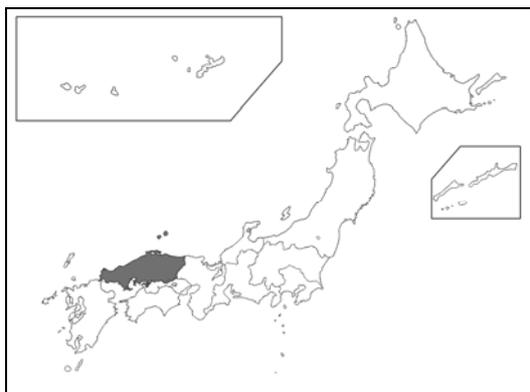


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

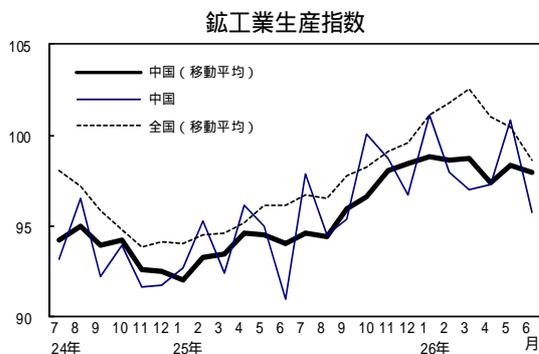
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 26 年 5 月)	今回 (平成 26 年 8 月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる

4～6月期には、輸送機械は、自動車は海外向けは増加したが、国内向けで駆け込み需要の反動がみられやや減少した。化学は、輸出が増加した品目などによりやや増加した。はん用・生産用・業務用機械は、一部に駆け込み需要の反動もみられるが、生産設備等の生産は堅調。鉄鋼は、自動車や建材向け等の生産は堅調であるが、定期修理の影響もあって減少。電子部品・デバイス、モバイル機器向けの部品の生産が、海外向けを中心に堅調で増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.5	0.2	0.8	6.3	1.3	0.2
化学	16.4	4.6	0.9	6.5	3.5	3.5
はん用・生産用・業務用機械	11.2	2.8	3.4	0.9	15.6	13.4
鉄鋼	7.7	2.0	2.1	3.2	0.9	7.0
電子部品・デバイス	7.1	0.4	11.2	7.1	5.9	1.1
鉱工業	100.0	0.2	0.7	0.3	3.6	5.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

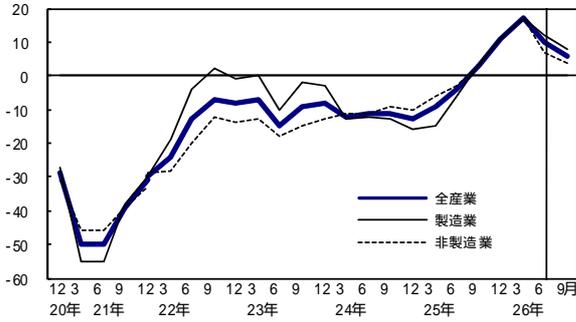
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

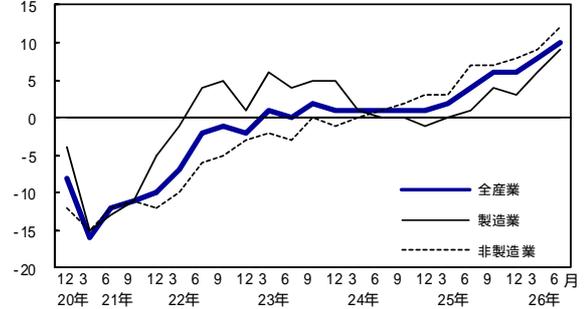
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



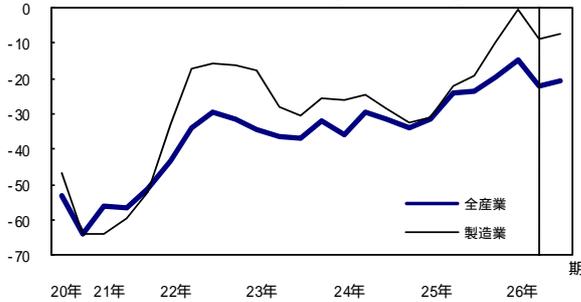
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年9月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



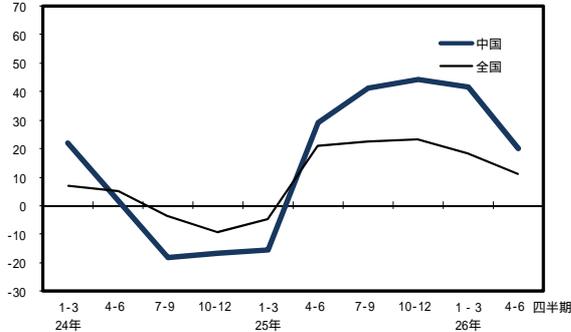
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「輸送用機器関連は、日本では消費税増税による一時的な減速も想定内で落ち着き、世界的には販売は堅調に推移している(非鉄金属製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績	26年度計画
全産業	3.8(2.3)	7.5(3.1)
製造業	6.4(0.5)	21.5(9.7)
非製造業	19.3(4.4)	9.3(5.9)

(備考) ()は前回(3月)調査修正率。

(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比12.2%減、5月は同3.1%増、6月は同0.6%増となった。

大型小売店販売額

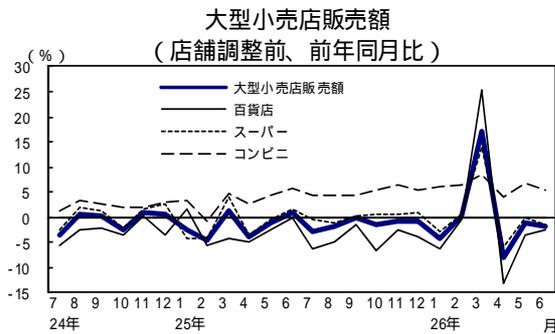
百貨店は、4月は駆け込み需要の反動で前年を大幅に下回った。5月は紳士服の販売は堅調であったものの、時計や宝飾品など高額品や化粧品の販売は低調で、全体として前年を下回った。6月は飲食料品の販売は堅調であったものの、天候の影響などにより衣料品全般の販売が低調で、全体として前年を下回った。

スーパーは、日用消耗品の販売が低調で、5・6月も全体として前年をやや下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、49.8となり前月より6.5ポイント上昇した。

「来客数は前年の70%程度であるが、新規客数は前年の90%まで戻ってきており、どん底からは脱した (乗用車販売店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

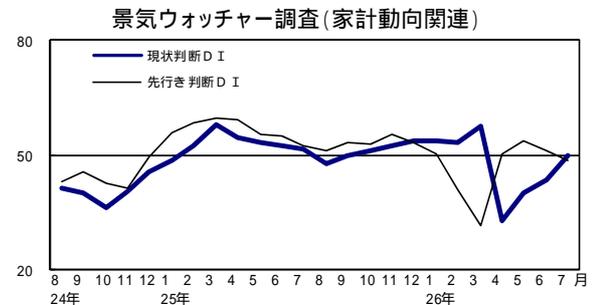
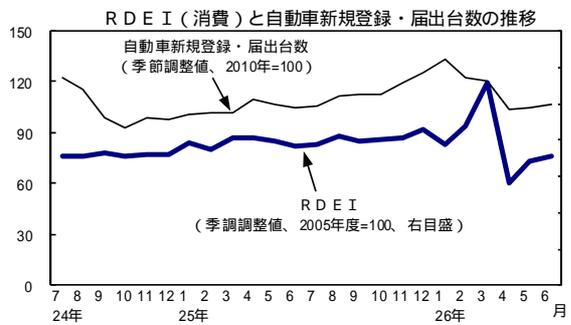


	26年4-6月	26年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	6.2	12.2	3.1	0.6
大型小売店(*2)	3.5	7.9	1.1	1.7
百貨店(*2)	6.1	13.1	3.4	2.3
スーパー(*2)	2.4	5.9	0.2	1.3
コンビニ(*2)	5.5	4.2	6.9	5.3
乗用車(*3)	1.1	4.3	2.7	3.0
(季節調整値)(*3)	16.0	13.4	0.7	1.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

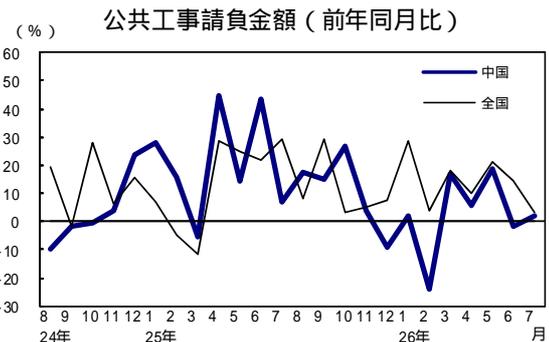
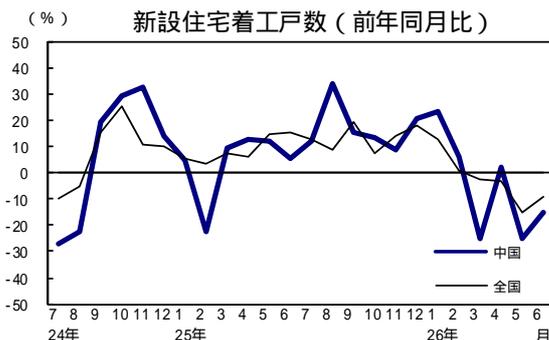
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を上回っている。

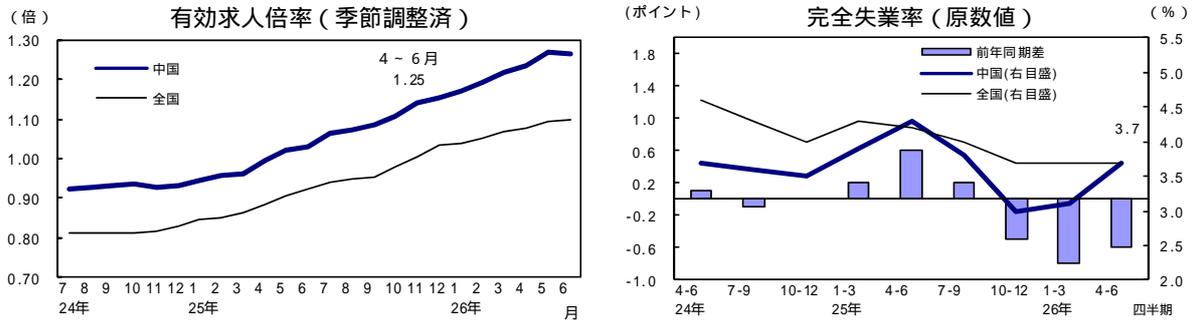


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

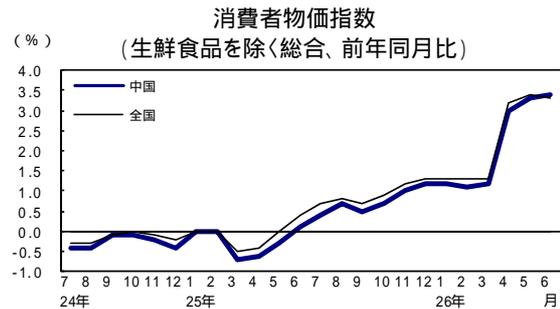
「来春卒業予定の県内高校生の求人状況は前年同期比で52%増と大幅に増加しており、景気の回復基調を感じさせる(新聞社[求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年7-9月	10-12月	26年1-3月	4-6月	26年7月
倒産件数	121	111	122	110	46
(前年比)	10.4	15.9	3.9	12.7	4.5
負債総額	177	206	213	163	41
(前年比)	9.7	11.9	19.6	77.3	2.8



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 自動車部品メーカーの多くは高操業を継続している。コスト改善効果もあり、売上は横ばいでも利益は増加傾向である。また夏のボーナスを大幅増額した自動車部品メーカーが多数出ている(金融業)。

<先行き>

- 駆け込み需要の反動減からは回復すると思われるが、大きく成長が見込まれる商品が見当たらないため、前年並みで推移する(家電量販店)。

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

